

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300060		
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		
事業所名	認知症対応型グループホームゆいしん		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1707-2		
自己評価作成日	平成29年5月20日	評価結果市町受理日	平成29年9月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年6月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリの一環として毎朝声掛けにてご利用者みんなで各自の居室の掃除を行っています。また、家事の手伝い(テーブル拭き・食器洗い・御盆拭き・お茶くみ)・花の水やり・生け花等もご利用者の出来る事を活かして活躍出来る場面を持てるよう支援しています。それ以外にも、毎日の体力作りとしてイス体操・ボールを使った体操・リズム体操・行進・散歩等を実施し、筋力低下の予防に努めています。季節感を大切にし、室内には季節毎の手作り壁画や生花を飾り、食卓にも旬の食材を使った献立を立て提供しています。ブランターに花や野菜を植えて、水やりや草ひきをみんなで行き、物を育てる楽しみ喜びを感じれるような支援も行っています。毎月、ご家族に手紙を送り、日々の暮らしの状況や活動内容を写真を添えてお伝えするようにし、遠方のご家族とも電話やお手紙を通じてこまめに連絡をとり、共に支え合う関係づくりに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の配食を活用されながら、利用者の希望があれば、差し入れの旬の食材などを利用して、利用者の食べたいメニューを参考に献立を立てられ、事業所で食事づくりをしておられるなど臨機応変に対応しておられます。利用者は職員と一緒に下ごしらえや味見、配膳、盛りつけ、テーブル拭き、お茶つき、下膳などをしておられ、誕生日食や季節の行事食など、食事を楽しめるように支援しておられます。職員は、地域とのつながりを広げるために地域の幼稚園に働きかけられ、年4回幼稚園児の来訪の機会をつくって交流を楽しめるよう取り組まれている他、利用者と一緒に地域のゲートボール見学にでかけられて、地域にとけ込めるよう工夫しておられます。馴染みの店での買い物や美容院の利用、季節毎の花見や紅葉狩り、地域行事への参加、ドライブ先での外食、家族の協力を得ての温泉旅行など、利用者一人ひとりの希望や馴染みの関係を大切にされた外出支援をされ、その時々利用者の気持ちを大切にされた取り組みで、利用者の笑顔の生活を支えておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合った理念と運営方針を事業所内に掲示し、スタッフ全員が理念を共有し協力し合いながら利用者のケアを実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を職員全員で話し合っつくり、法人の理念や運営方針と共に事業所内に掲示している。職員間で話し合っつ共有し、理念の意識づけをして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流というのはまだまだ出来ていないが、地域の恒例行事(お祭りやイベント)には積極的に参加し、そこで出会った地域の方々と交流を図っている。また、当施設においても、地域の方に呼びかけを行い、ボランティアとしてコーラス・日本舞踊・銭太鼓・フラダンス等を披露してもらったり、近隣の幼稚園とも交流を図り、プレゼント交換をしたり節分豆まき等一緒に楽しむ機会を設けている。	地域の行事(農業祭、ふれあい祭り、福祉の市)への参加やゲートボール見学、ボランティアの参加を得て行っている拠点施設の行事(納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会)への参加、拠点施設に来訪しているボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、3B体操、地域の僧侶による月1回の法話等)の見学をして、地域の人と交流している他、日常的に併設施設(特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所)の利用者や家族と交流している。年4回、近くの幼稚園児が来訪し、警察の寸劇を見たり、節分の豆まきや歌を一緒にして楽しんでいる。家族や親戚の人から季節の野菜や果物、花の差し入れがある。周辺の散歩時に地域の人と挨拶や言葉を交わしているなど、日常的に交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に外出(買い物・散歩・ドライブ)等を行う際には、積極的に地域の方々や交流を図るよう努めている。また、来訪された方々に対しても同様に理解や支援の方法について伝えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価を実施するにあたり、日頃なかなか振り返ることの出来ない自分達の実情を改めて見つめ直し、襟を正す機会だと感じている。外部評価でご指摘を受けた事柄に対してはスタッフ全員に伝えて、皆が真摯に受け止め、事業所として改善していけるように努めている。	管理者が職員会議で評価の意義を説明し、職員から意見を聞いてまとめた後、回覧している。全職員が評価項目について十分理解しているとはいえない。外部評価結果は運営推進会議や職員会議で報告している。目標達成計画を立てて、職員間で話し合っ、地域との交流機会を増やすことなど、改善に取り組んでいる。	・評価項目の全職員の理解 ・全職員による自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において話し合った事柄や参加された方々から出た意見や提案は、すぐに聞き入れサービス向上に繋げるように努めている。運営推進会議がマンネリ化してきた充実した話し合いがあまり出来ていないところは今後の課題だと感じている。	年6回、拠点事業所合同で運営推進会議を開催している。事業所の現況や活動状況、防災訓練、外部評価等について説明し、意見交換を行っている。地域の行事の情報を得たり、法人の行事の紹介や参加依頼を行って、地域との交流につなげている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議を含め、折に触れて連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え情報交換や助言等頂きながら、協力関係を築いている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他、電話や直接出向いで、相談して助言を得たり、情報交換をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において定期的に身体拘束について学ぶ機会を設け理解を深めている。当施設においては、常に玄関は開放しており、ご利用者が自由に出入り出来るようにしている。	法人の施設内研修で年1回、身体拘束、虐待防止について学び、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックのない言葉かけに配慮し、気になるところは職員同士で注意しあっている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において定期的に虐待防止について学ぶ機会を設け理解を深めている。日常の声掛けやケアにおいても、スピーチロック等職員間でお互いに注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の対象になるご利用者の方は今までいっしょにいないが、今後必要な方も出てくる事を踏まえ研修等で学ぶ機会を設けていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や受付体制について契約時にきちんと説明をし、施設玄関に明示している。日頃から利用者や家族等が意見や要望を言いやすい関係作りに努め、苦情・相談等については速やかに対応している。	契約時に苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員等について、家族に説明している。毎月、家族に利用者の様子がわかる写真と手紙を郵送して意見や要望が表せるよう努めている。面会時や年2回の家族会、運営推進会議参加時、電話等で家族からの意見を聞いている。出た意見や要望は伝達ノートで職員が共有している。家族の意見からレクリエーションに「生け花」を取り入れるなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から伝達ノートに意見や提案を書くようにしてスタッフ間で共有し、月に1回職員会議で話し合い意見をまとめるようにしている。また、月1回の施設全体の幹部会議において理事長や副園長に対してグループホーム内で出た意見や要望・提案を伝え運営に反映している。	月1回の職員会議や伝達ノートなどで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で意見や提案を出し合い職員全員で検討している。管理者は、必要に応じて月1回の幹部会議で報告し、意見を反映させるよう取り組んでいる。レクリエーションや園芸活動など職員の得意分野を活かしている。職員の意見から、利用者が花壇を見るための外用ベンチを設置するなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スタッフ個々の家庭状況や心身状況を理解し、労働時間や勤務内容等働きやすい環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を行い(介護技術・救急対応・身体拘束・虐待防止・感染予防)等学ぶ機会を設けている。また、法人全体として外部の講師を招いて学びセミナーを年2回実施し、参加できなかったスタッフにも資料を回覧して共有し全員が研修報告書を提出している。また、スタッフの力量に応じた外部研修を提案し、積極的に受けることが出来るようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、実践者研修に2名、介護支援専門員研修に1名が受講している。法人研修は、年2回、学びセミナーを開催している。内部研修は、拠点事業所合同で施設内研修として年11回実施し、口腔ケア、食中毒、誤嚥、応急手当の基礎知識、熱中症予防、事故防止、研修報告、感染症、緊急時対応、KTY、防災訓練などを学んでいる。出席できなかった職員には資料を回覧している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとは定期的に施設を行き来して情報交換を行ったり、お互いが抱える悩み等を相談し合ったり、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの段階からご本人様の困りごとやご要望・施設入所にあたり不安に感じていらっしゃる事柄に耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご本人の安心が確保できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの段階からご家族の困りごとやご要望・施設入所にあたり不安に感じていらっしゃる事柄に耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご家族の安心が確保できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお話を聞いたうえで、必要な支援がなんであるか、その支援を受けることが出来る施設についてあらゆる選択肢を提示し、一緒に考えていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が暮らしを共にする家族の一員であるという意識で日々生活している。職員はご利用者から様々なことを学び、ご利用者には必要なケアを提供するという支え合いの関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、ご利用者とご家族の絆を大切にしながら、職員の一方的な考えでの支援ではなく、ご家族と一緒に支援内容について考え共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や近所の方や友人等の来訪があり、その際にはゆっくりと一緒に過ごせるような環境を整えている。来訪された方々との思い出に記念写真を撮り、来訪された方々とのことを思い出せるようアルバムに綴じている。入所前から利用していた呉服店へ服を買いに行ったり、衣服の調整やズボンのすそ上げなどお願している。寝具店の方が来訪してくださり一緒に寝具を選んだりすることもあった。月に1回のドライブの際には、ご利用者の馴染みの場所(昔の職場、自宅周辺、思い出の地)を訪れたり、ご家族や知人の協力を得て外出や外泊なども行うなど馴染みの場との関係が途切れないよう支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人などの来訪があり、来訪時には写真を撮って思い出づくりや会話のきっかけづくりに活用している。地域の行事や昔の職場、馴染みの景勝地(青海島等)に出かけたり、馴染みの店での買い物(寝具、洋服)、ズボンの裾揚げや美容院の利用など、個別に外出支援を行っている。家族の協力を得て墓参りや法事への参加、外出や外泊が出来るよう支援し、ひとり一人が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、工作で共同作業を行ったり、日々の役割分担等で利用者同士が協力しあえるよう、一人ひとりが孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(当施設においては特養への移動など)、これまでの関係を断ち切らないように定期的に会いに行ったり、ご家族にお会いした際には困りごとや相談に乗る等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを訴える事が出来る方は日々の関わりの中で思いや意向を出来るだけ聞いて、ご本人の意向に沿ったケアが行けるように努め、なかなか自分の思いが訴えられない方については、日頃の言動や表情の変化などから思いを汲み取るよう努めている。	入居時の情報「私の姿と気持ちシート」を活用して思いの把握に努めている他、利用者の日常の様子を「ケースダイアリー」や「伝達ノート」に記録し、本人本位に思いや意向を把握するよう努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の面談にて、これまでの生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方等ご本人やご家族から情報収集し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身状態を把握し、その人に合った時間の過ごし方、有する力によって出来る事出来ない事を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや日々の様子の中での気づき・課題をケースダイアリーや伝達ノートに記録し、月に1回の職員会議兼ケアカンファレンスにて話し合い意見やアイデアを出し合っている。その際には、ご家族からの意向や主治医等の意見も参考にして介護計画に繋げるようにしている。 ご家族には毎月のお手紙や電話等でご本人の様子や介護計画の内容は伝え、ご意見や要望を積極的に聞くようにしている。モニタリングは毎月実施し、6ヶ月ごとにプラン見直しを行っている。利用者の状態に変化があればその都度見直しも行っている。	計画作成担当者が月1回の職員会議(ケースカンファレンス)で話し合った利用者本人の思いや意向、家族の要望、主治医の意見などを反映した介護計画を立てている。月1回モニタリングを実施し、6ヶ月に1回見直しを行っている他、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等はケースダイアリーに記録し、スタッフ間は伝達ノートで気づきや情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々で生まれた課題に対しては、その都度スタッフ間で話しあい、柔軟に多様な支援方法を検討し取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源を把握し、ご本人が安心して穏やかに暮らしを楽しむことができるよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけご本人とご家族の希望する医療機関を継続してかかりつけ医としている。多様な医療機関への受診もスタッフがほとんど対応している。当法人にはクリニックが嘱託医とも日々のご利用者の様子を伝えて何かあれば往診や緊急時の対応をしてもらえるような体制を設けている。その為、同施設内の特養看護師とは常に連携を取り情報交換を行っている。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関をかかりつけ医とする人は週1回、その他のかかりつけ医からは2週間に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得ている他、本人の状況に応じて事業所が受診支援を行っている。受診結果は家族には月1回のお知らせや必要に応じて電話で報告し、職員間では「伝達ノート」で情報を共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携を取り、拠点施設の医務室や看護師と情報を共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、同施設内の看護師に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、定期的にお見舞いに行き、病院関係者から情報を聞いたりしている。日頃から、各病院の地域連携室との関係づくりを行い情報交換も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。当施設においては、同施設内に特養を併設している為、お互いに情報交換しながらチーム支援に取り組んでいる。	契約時に移設も含めて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族と相談し、かかりつけ医や拠点施設の看護師の意見を聞いて職員間で話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて職員会議の際に勉強会を行ったり、応急手当や初期対応の訓練を1年に1回全体研修として救急救命士からの指導を受けている。	事例が生じた場合は、その日の職員で話し合い、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、「伝達ノート」にコピーを添付し全職員に回覧している。職員会議で再検討し、対応策を介護計画に反映させひとり一人に応じた事故防止に努めている。幹部会議に報告し必要に応じて拠点施設の事故防止委員会で検討している。応急手当の基礎知識や緊急時の対応について施設内研修で学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が定期的に話し合い、施設全体でも訓練を実施している。地域と協力体制については法人全体での協力体制については整っているが、具体的に当施設と地域との協力体制の構築について確たるものが出来ていないため、今後検討していく予定である。	マニュアルがあり、年2回消防署の協力を得て、拠点施設合同で昼夜を想定し(内1回は警備会社の協力有り)、利用者も参加して、消火、通報、避難、誘導、防災設備チェックを行っている。避難誘導後の見守り等を警備会社が担当するなど工夫しているが、地域の人の訓練への参加はなく、地域との協力体制を築いているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。時に言葉かけや対応が慣れあいになつたりすることがある為、その都度自分の言動を反省し見直すようにしている。	利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところがあれば、その都度管理者が注意したり、職員同士で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望が言いやすい環境や人間関係を築き、自己決定が出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、希望にそった支援を心がけているが、自己決定が難しい方が多くスタッフの方が1日の流れを誘導してしまっていることもある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように衣服を自分で選んだり、化粧水や身だしなみに必要な道具については本人の使いやすい物を使用して頂ける様に支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人にキッチンセンターがある為、月曜～土曜の(昼食・夕食)はキッチンセンターからトレーに入った食事が届き、それを利用者の食べやすい大きさにしたり温め直して盛り付けし提供している。 毎日の(朝食)と日曜日の(朝食・昼食・夕食)はグループホーム 独自で献立を考え、スタッフが手作りで提供している。 それ以外にも、ご利用者の誕生日にはその方の好物をお出ししたり、ご家族や知人の方から旬の食材を頂いた時などは食材に合った調理法をご利用者に聞いたりしながら臨機応変にキッチンセンターの配食を中止して、グループホーム内で独自に調理する等多様に対応している。 食べる事だけでなく、利用者がスタッフと出来るだけ一緒に食事の献立を考えたり、準備や片付けも協力して行っている。	月曜日から土曜日の昼食と夕食は、法人の配食を利用している。利用者の希望があれば配食を中止し、事業所で調理するなど柔軟に対応している。朝食と日曜日の食事は、差し入れの旬の食材を活用し、利用者の食べたいメニューを参考に献立を立て、事業所で調理している。利用者は職員と一緒に下ごしらえや味見、配膳、盛りつけ、テーブル拭き、お茶つぎ、下膳など出きることをしている。誕生日食(本人の好きな物)や季節の行事食(お節、七草粥、節分、雛祭り、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会など)、お弁当の日(外出)、外食(ファミリーレストラン、希望に合わせたデザート)、おやつづくり(芋きんとん、ホットケーキ、餅つき、白玉団子、かきもちぜんざいなど)、家族の協力を得ての外食支援など、食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に応じて食べる量や栄養バランスを考えて提供している。食欲がなくなると食事が摂取出来なかった場合は、本人が食べやすい物(おやつ等)で補っている。 水分摂取は特に注意し、毎食後・入浴後はもちろんの事、10時・15時・19時にもティータイムとして水分をすすめている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前と起床時には必ずご本人に応じた口腔ケア(入れ歯洗浄・歯磨き・うがい)を実施している。それ以外にも、毎食後に緑茶をだして口腔内が清潔になるよう工夫している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの身体状況や排泄のパターン・習慣を把握し、トイレでの排泄を心掛けている。その際には、ご本人の自尊心を傷つけないような言葉かけ・誘導のタイミングに配慮した支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、自尊心を損なわぬよう、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を出来るだけ把握出来るように努めているが実際は確実ではない。毎日の体操や飲食物の工夫など便秘予防には努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や身体状況に合わせて入浴を楽しめるように努めている。入浴剤を使用したり、湯加減もご本人の好みに配慮し、ゆったりとくつろいだ入浴になるよう心掛けている。入浴以外でも、清拭や部分浴などの対応も臨機応変に対応している。	入浴は毎日可能で、時間は特に決めず、本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴したくない人には無理強いせず、声かけを工夫するなどして、週3回は入浴できるよう支援している。入浴しない日は足浴、清拭などで対応している。職員とおしゃべりや歌を歌うことを楽しんだり、袖湯、入浴剤を使用するなどして、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況、生活習慣を把握し、無理なく休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量についてスタッフがいつでも確認できるようにしている。その人に応じた服薬の支援と症状の変化の確認にも努めている。また、飲み忘れ・誤薬がないように、スタッフ間で必ずダブルチェックを行うようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格、出来る事をスタッフが理解し、それぞれが進んで役割分担を行えるような支援や、ご本人の生活歴から張り合いをもって行えることを見出し、活躍できる場面を作る支援も行っている。また、ご本人の好きな食べ物・飲み物を把握し選択出来るようにしている。ご本人の誕生日には、好物の物を振舞い、外出もご利用者の意見や希望を聞き行先を決めている。	拠点施設の納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会への参加、豆まき、雛祭り等の行事、拠点施設に来訪するボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、3B体操、法話など)との交流、幼稚園児の来訪、新聞や雑誌、紙芝居を読む、テレビやラジオの視聴、歌を歌う、手づくりパズル、双六、ぬり絵、折り紙、貼り絵、ちぎり絵、壁面飾りづくり、うちわづくり、新聞紙のゴミ袋づくり、生け花、プランターや花の水やり、草取り、調理の準備や片づけ、お茶入れやおやつづくり、洗濯干し、洗濯たたみ、居室の掃除など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物、ドライブ等戸外に出かけられるよう支援に努めている。家族や知人等との外出も積極的に支援している。	季節の花見(桜、つつじ、紫陽花、パンジー、ひまわり、コスモス、紅葉)、地域の行事(農業祭、ふれあい祭り、福祉の市)、青海島ドライブ、美祿中央公園、ゲートボール見学、寝具や衣類などの買い物、外食、手づくり弁当を持つての外出、事業所周辺の散歩、プランターや花の水やり、草取り、食材の買い出し、家族の協力を得ての温泉旅行、墓参り、法事への参加など、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、またご家族の意向をお聞きした上で、ご本人がお金を所持したり使えるように支援している。以前は自分でお金を所持している方もいたが、本人からの希望もあり今は全員の方のお金の管理は家族・職員が行っている。お買い物に出掛けた際には、お預かりしているお金からご自分で支払いをするという支援も行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有しているご利用者もあり自由に家族や知人等に電話をされている。それ以外でも、ご本人が希望されれば、ご家族に電話をかけたり出来るよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねく事が無いよう配慮している。特に共有スペースの食堂兼フロアの空間が少し狭い為、転倒や接触事故の無いよう注意している。フロアは季節感は大切にし、季節に合った生花や作品を展示し、換気や室温調整もしっかりと行い居心地よく過ごせるよう努めている。	居間兼食堂の入り口には利用者の生け花を飾り、食卓や洗面所などには家族や親戚の人、職員からの差し入れの季節の花を飾っている。窓からは陽が差し込んで明るく、壁には貼り絵や折り紙、ぬり絵など、季節ごとに利用者が作成した作品を飾り、季節や親しみを感じることができるよう工夫している。台所から調理の様子や匂いを感じることができ、家庭的な雰囲気がある。食卓やテレビの前にソファを置き、広い廊下にもソファを設置し、利用者は思い思いにくつろぐことができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士が互いの居室を自由に行き来したり、一人ゆっくりと休みたい方には静かに過ごせる居室へ誘導する等の配慮をしている。共有のフロアやソファもご利用者の関係性を把握し居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込んで頂き、居心地よく安全に過ごせるように工夫している。	ベット、棚、机、椅子、衣装掛け、テレビ、カセットラジオ、時計、衣類、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族との写真、ぬいぐるみ、本人のぬり絵作品などを飾って、その人らしい居心地の良い空間をつくっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所が分からない方が迷わず室内を行動できるように、分かりやすい名札を表示している。ご利用者つまづきやすい場所や転倒の無いようにイス等の配置を工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 認知症対応型グループホームゆいしん

作成日：平成 29 年 9 月 3 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価を行う際、職員全体に説明し意見を聞きながら実施していたが、評価項目について全職員が意見を出せているとは言えず、それぞれが十分項目内容を理解しているとはいえない。	自己評価、外部評価の意義を全職員が理解し、全職員で自己評価に取り組む。	・自己評価・外部評価の意義を全職員一人一人に説明し理解できたか確認する。 ・全職員に自己評価表を配布し、まず各自の自己評価を提出してもらう。 ・各自から出た内容をまとめ施設自己評価として提出する	12ヶ月
2	5 36	運営推進会議のメンバーに民生委員や地域の消防団等の参加がなく、運営推進会議で話合う内容が運営に活かされたものになっていない。	運営推進会議のメンバー拡大を行い、会議においてより具体的に災害対策等地域との協力体制構築に向けての話し合いを行っていく	・運営推進会議のメンバー拡大 ・運営推進会議においてテーマを決めて具体的な意見交換や話し合いを行っていく	12ヶ月
3	35	応急手当の基礎知識や緊急時の対応について施設内研修等で学んでいるが、1年に1回程度の実施で全職員が実践力を身に付けるまでに至っていない。	全職員が応急手当の基礎知識・実践力を身に付け緊急時の初期対応に落ち着いてあられるようにする	・施設内研修だけでなく、GH職員独自の研修を実施する。 ・研修では実技を中心とした具体的な内容のものを実施する	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。